

## 第35回「大阪の消防大賞」受賞者

### 消防団員の部

所属	受賞者	功 績 概 要
堺市美原消防団	氏林清治 団長 以下48名	<p>放置ボンベによる事故を未然に防止することを目的として、平成27年より管轄する堺市美原区の全区域を対象として、毎年10月に行われる「高压ガス保安促進週間」「放置ボンベ撲滅週間」に併せて放置ボンベ捜索活動を実施し、これまで数多くの放置ボンベを発見回収した。</p> <p>令和元年10月27日にも32名の団員が放置ボンベ捜索を行ったところ、幸い放置ボンベ発見には至らなかったが、これは過去4年間の成果が出た結果であると考えられる。</p> <p>また、火災予防運動期間や年末の歳末特別警戒期間には、巡回広報活動を積極的に実施し、住民の火災予防思想の向上に貢献するとともに、自主防災訓練時には、初期消火等の指導を率先して実施するなど、地域と密着した地道な活動で住民の安全を図ることに貢献している。</p>
豊能町消防団	東浦正純 団長 以下209人	<p>近年、大規模な水害が多発している中、水防活動技術の向上等を目的として、大阪府消防協会豊能地区支部で行われている水防訓練や豊能町消防団総合訓練により、人命尊重を主眼とし且つ被害の軽減を図る防ぎよ技術を身につけるべく、実践しながらの訓練を実施している。</p> <p>このことから平成30年6月28日から7月8日にかけて連続的に雨が降り続いたことにより発生した管内13件の土砂災害に対して、住民の避難誘導や応急対応など迅速な対応ができた。</p>
泉佐野市消防団 市役所分団	15人	<p>新任団員の確保や高齢化が課題となっている中、消防団活動の停滞を防ぐため、平成30年4月に市役所職員で構成する市役所分団を設立、以降地道な活動を展開している。</p> <p>軽四輪小型動力ポンプ積載車、救助用資機材・小型動力ポンプ積載車を配置し、訓練を繰り返している。報道に大きく取り上げられる事案はないものの火災等に対して出動しており、熱意ある市職員が真摯に訓練等を繰り返す姿は、市民の安全・安心に大きく寄与しており、本取り組みは同様の課題をもつ他都市の模範と認められるものである。</p>

### 消防職員の部

所属	受賞者	功 績 概 要
泉州南消防組合  泉州南広域消防本部 大阪市消防局	泉州消防署 同砂川出張所 阪南消防署 同南西分署 警防部指揮司令課 航空隊 (計32人)	<p>山中において胸痛を発症し下山できなくなった重篤な状態にある要救助者を早期に救出するために地上から救助にむかった泉州南消防組合各隊と大阪市消防局航空救助隊が要救助者情報の共有を行い、緊密に連携しながら捜索活動を行った結果、要救助者を早期に発見できたこと、また、航空救助隊の迅速な救助活動からランデブーポイントでの準備並びに引き継ぎ、そして救急隊の的確な傷病者観察並びに病院選定の結果、スムーズに医療機関に収容し、適切な治療を受けることができた、まさにワンチームとなった事案である。</p>
枚方寝屋川消防組合	警防部警防課 4人	<p>管内にある共同住宅の一室においてカセットこんろの一部が焼損した事案があり、火災を引き起こしたカセットボンベは、10年以上前に購入し室内で保管されていたものであり、長期間保管されているカセットボンベの内部で何らかの異常が発生していると判断し、鑑識を実施した。鑑識の結果からカセットボンベの内部にあるラバーが経年劣化することにより内部のガスが漏れ噴き出す事を突き止めた。このことから、製造日からどれ程の期間が経過すればラバーの劣化が進行しているのかを実際に複数のカセットボンベを用いて鑑識を実施し、使用期限の目安となる参考資料を作成した。また、市民に対して身近な火災危険として広報することで類似火災の発生を未然に防ぐことに努めた事案である。</p>
堺市消防局	3人	<p>令和元年10月17日4時34分の119番通報入電により覚知した事案である。通報者は、一人暮らしの男性本人であり、重度の呼吸困難により声が出せず、喘鳴呼吸音のみを発し要請場所を申告できない状態であった。発声不能であることに気づいた通信指令員3名は、機転を利かし、意思表示の手段として携帯電話の送話口を指で叩く方法により通報者から情報聴取を行い、車載地図の入居者情報を活用して要請場所を迅速に特定し、時期を失することなく適切な救急搬送につなげることができた。通報者は、10日間の入院をしたのち、後遺症なく軽快退院、社会復帰を果たした。</p>
大阪市消防局	西成消防署 138人	<p>平成30年7月10日0時18分、木津川沿いの産業廃棄物処理工場内の倉庫で爆発火災が発生。近來においても稀にみる大規模な危険物倉庫の火災という特異事案であり経験も少なく、通常火災の対応方法が通用しないために一時は劣勢に陥りかけたものの、平常時から火災防ぎよ困難対象物として当署々員の多くが認識していたため適確に部署を完遂することができた。そして、大爆発を繰り返す大惨事にも、冷静さを失わずしっかりと現状を把握し、最悪事態を想定してそれに対処しながら陸と川からの大量一斉泡放射という最適な消火戦術を選択した方面隊長を指揮者とする指揮系統の好判断があったこと、そして、一斉泡放射という最後の手段として期待される中、各々の隊は失敗が許されない重圧にも打ち勝ち、各隊がそれぞれの任務を適確に遂行し、過去の経験から生み出された知恵を出し合い一致団結することで、消防力が多様な災害に対応できることを証明することができた功績は顕著である。</p>